

Infinity

人権 LHR ～ オレならできる オレならできる オレならできる ～

10/8（水）6 限 人権 LHR @体育館 対象：1・3 年生 講師：芦田 創（はじむ）先生

以下、講演会内容要約です。とても興味深い話でした。せっかくなので学年通信にまとめてみました。フィードバックに活用してください。また、保護者の皆さまも一読していただき、お子様にも話しを聞いてみてください。

「魔法って信じる？」ステージに上がるなり、前置きも自己紹介もなく、いきなりの質問に少し戸惑いながらも、あっという間に芦田先生のトークに引き込まれていきました。魔法は信じていなかったけど、最近魔法を信じるようになった。なぜかー。という振りまで一通り話し終えたら、やっとここで自己紹介。パラリンピック陸上競技の日本代表で走り幅跳びの選手。

「ジャンケンしよう！」障がいのある右腕（グーしか出せない）を挙げ、「最初はグー、ジャンケンポン！」その瞬間、マイクを素早く持ち替え、左手でチョキを出す。パーを出した人はピュア、グーを出した人はええやつ、チョキを出した人は変人らしい。ほとんどの人がパーを出して負けていたよう。西高生はピュアな学校ということですね☆

その右腕によるハンデは、私たちが常に 2L のペットボトルを片手に持っているようなもの。重く感じるのはもちろん、バランスをとれないのが難点で、競技レベルが高くなるとそれが大きな怪我に繋がりがねない。しかし、走り幅跳びに魅了され、より遠くに跳ぶ（正確には「跳ぶ」というより「吹き飛ばす」という感覚らしい）ことを追求し、7m（教室を飛び越えるくらい）という記録を残した。実際にメジャーを伸ばし、その長さを見ると自然と拍手が起こっていました。ミスしたら怪我、でも成功したら嬉しい。「この嬉しさ分かるかな？いや分からなくてもいい。人それぞれ自分の好きなことってあるはず。人には理解できないものもあるかもしれないけど、とにかく自分の好きなことを共有してみよう！」隣の人たちと 3 分ほど共有する時間を設け、自分の好きを共有しました。すると、あっという間に体育館にはエネルギーが満ち溢れました。

さて、本編。「魔法って信じる？」の回収。魔法って何か。それは言葉。言葉は魔法。言葉にしたことは実現する。夢は言葉にすると叶う。よく聞く言葉ではありますが、芦田先生の体験談には、とてつもない努力の裏付けが根底にありました。「言葉にすれば夢が叶う」という言葉を断言できるだけの努力があり、とてつもない苦労があり、でもそれを跳ね返すようなエネルギーもありました。また、最近そう思うようになったのは、苦しかった競技人生と右腕の障がいが深く関わっていました。

競技人生大一番をかけた跳躍の 30 分前に肉離れ。その怪我をしたとき頭によぎった言葉が、「金メダル獲る人って、こんなことにはならないよな？」だった。そもそも振り返ると苦しい競技人生だった。あの頃はスポンサーのこと、次の記録のこと、次の対戦相手のことなど、そんな次のことばかり考えていた。金メダルを獲る自分を想像すらしていなかった。魔法を信じていなかった頃の自分。一方、今を生きていた頃（若かりし頃）の話し。右腕の症状が進行し切断を宣告されたが、ポジティブなマインドで過ごしていたら突然治った。科学的に証明できないことが実際に起こり、医者もビックリしていた。こういった出来事がリンクし、魔法（言葉）を信じるようになった。（他にも、言葉にしたものが実現したエピソードをたくさん話してくれました。）

「自分はこんなもん」と思ってない？今からでも変えられる。人生をより良くするマインドを持とう！強いメッセージには心を打たれました。また、「おれは強い」と「おれは弱い」の実演も面白かったですね。みなさんも、本当にそうなるか、また試してみてください（笑）

最後に質疑応答。Q「練習や試合で意識していることは何か？」A「練習は試合のように 試合は練習のように 試合（本番）では、自分がコントロールできるものが極端に少なくなるから。」私たちの受験も同じですね。芦田先生は、日常を本番のように過ごしているから、どんな状況でも「何とかできる」という自信があるとおっしゃっていました。まさに私たち受験生が見習う姿勢がそこにありました。「日常を本番のように」＝「日常を大切に」ということですね。そして、何といてもあのエネルギー部分もぜひ見習っていききたいですね。